

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日: 2020年 3月 20日

<p>テーマ名</p>	<p>「AIを監査する…」 ～ ビジネスにAIを活用するITCへの提言 ～</p>	
<p>届出組織等名称</p>	<p>企業内ITコーディネータ・ITガバナンス研究会</p>	
<p>成果物公開URL</p>		
<p>当活動代表者 及び担当者連絡先</p>	<p>(代表者氏名) 古川 正紀 電話番号: 03-5953-6121 e-mail: furukawa@astop-si.co.jp</p>	<p>(担当者氏名) 同左 電話番号: e-mail:</p>
<p>研究・調査 成果概要</p>	<p>デジタル化の進展に依って、ITが業務に組み込まれ日常の仕事がそれなしでは回らない時代になって久しい。ことに「DX」という言葉がもてはやされ、「いかに早く実用に供するかたちで導入するか…」が、当然の如く語られる時代にある。主役になるのは、AI、RPA、IoTなどであるが、ただ単に導入すればことが進むと云う単純なものでないことは明らかである。</p> <p>私共「企業内ITC・ITガバナンス研究会」としては、これらの信頼性を検証・担保する監査プロセスのすべてを研究テーマとして網羅すべきとも思われるが、些か荷が重すぎるのと、それは本分でもないと考えているので、今年度はその一連のプロセスの一部に特化して、ITコーディネータとしても関心の深いであろうところ、「AI監査」の部分を探掘して、論述したいと考えている。</p> <p>「AI監査」を行うに、実際にあたっては、データを投入して結果を見ることから始めなければならないか…とも思われるが、私共は新しい技術特有のリスク要素に感度を上げて、50数年前初めてのコンピュータシステムの信頼性を担保するために監査を行った時と同等のアウトプットを導き、変化に向き合って新しい技術に臨むべきと考え、これを今年度の研究会成果物とさせて頂きました。</p>	
<p>成果物</p>	<p>章立ては、 1章はじめに 2章AIが活躍する環境 3章AIを利用することによる効果(経営的な視点から) 4章AI処理の信頼性とは(AIの処理結果をそんなに簡単に信用していいものか) 5章AIの開発を委託される企業が留意すべきリスク 6章 ITCによるAIの信頼性へのアプローチ 7章おわりに</p> <p>別紙Ⅰ: ITC自身のAIに対する理解のポイントと同時に、顧客への説明ポイント 別紙Ⅱ: AI監査のチェックリスト(例示)</p> <p>とし、ITコーディネータの活用シーンにフォーカスして、論述致します。</p>	
<p>事務局受付日</p>		<p>2020/3/20</p>
<p>案件番号</p>		<p>S19006</p>